



大島町立つばき小学校

研究主題

大島の未来を切り拓く人材の育成

～SDGsの視点に立った郷土大島に根ざした学習を通して～



令和2年2月

大島町立つばき小学校

令和2年10月15日(木曜日)

大島町立つばき小学校

第5学年1組(30名)

指導者: 豊田 秀夫

授業者: 吉野 峻一

<つばき小学校 研究主題>
未 来 を 切 り 拓 く 人 材 の 育 成
～SDGsの視点に立った主体的な学びを通して～

1. 学習全体のテーマ 「大島町の防災を考える ～自分たちにできること～」

2. 学習全体の取組を通して育成する力とその評価規準

<目標>

○大島町の自然災害の現状、減災・防災について理解を深め、これから自分たちでできる減災・防災について、自ら課題を見付け、多面的・総合的に考え、大島町に発信することができるようにする。

○現在および将来に直面する災害に対して、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。

○友達と協力して課題の解決を図ろうとしたり、伝え合ったりできるようにする。

<評価規準>

知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・大島町が取り組んでいる減災・防災対策を知る。・自然災害が起きたとき、自らの安全を守るための行動が分かる。・自然災害に対し、どのような備えをしたらよいか分かる。・調べたことを発表し合い、減災・防災に対する理解を深める。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・自分たちでできる減災・防災について、自ら課題を見付け、課題解決に向けて学習計画を立てている。・資料やアンケートを用い、課題に関係する情報を収集している。・資料やアンケートなどから得た情報を整理・分析して、まとめている。・減災・防災についてまとめたことを、学校や家庭、地域に発信している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">・課題解決に向け、仲間と協力しながら、進んで学習に取り組んでいる。・住んでいる地域を調べ、減災・防災に対する関心を高め、様々な機関を活用しながら、調べようとしている。・仲間と協力して、効果的な表現方法や発信の仕方を考えようとしている。

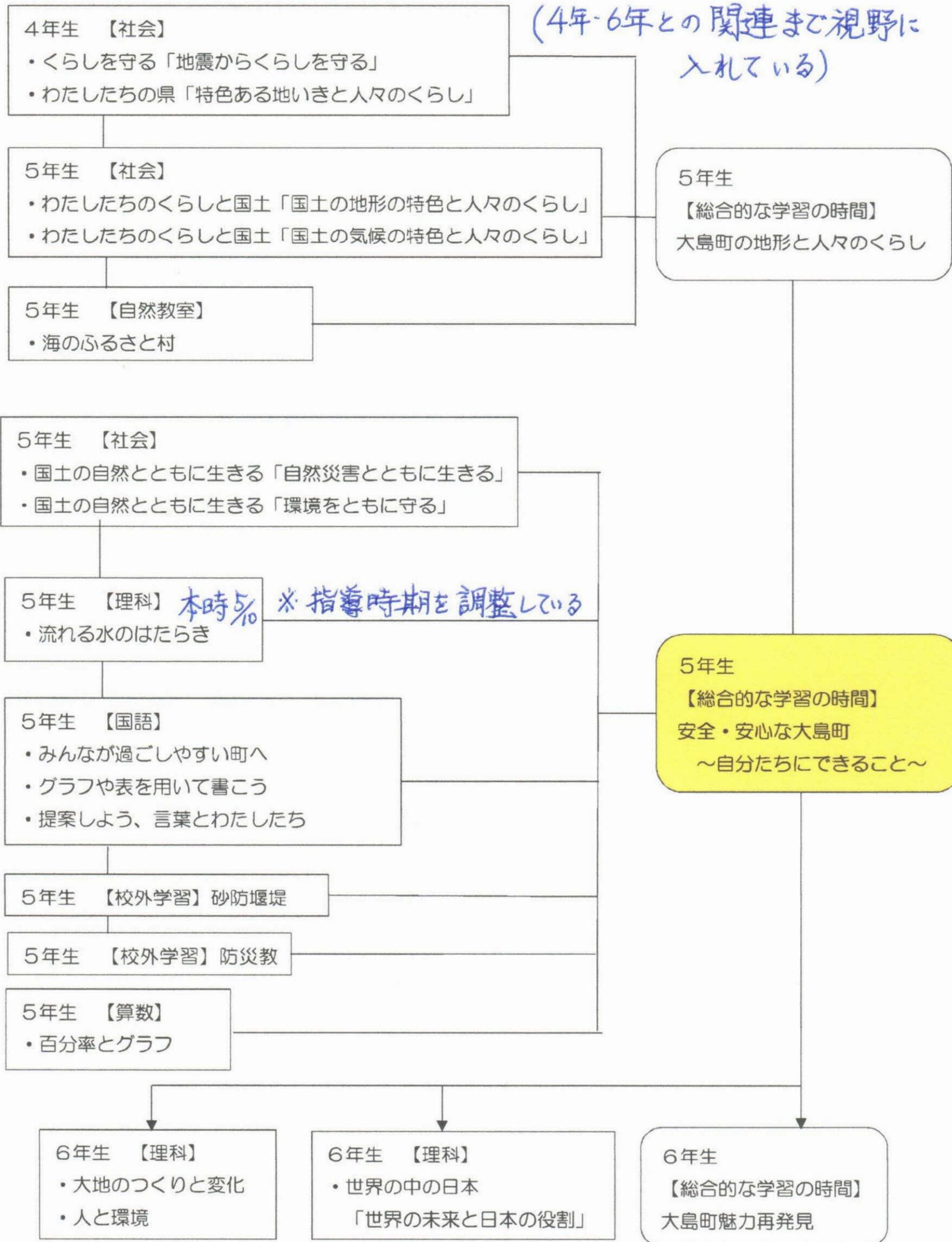


評価規準は学習指導要領による

教科等横断的な視点でカリキュラム・マネジメント

3. 学習全体の系統性

(4年・6年との関連まで視野に入れている)



4. 学習指導観

(1) 教材に対する児童の実態

本学級の児童は、各教科や総合的な学習の時間の学習を通し、「調べる→まとめる→発表する」という学習活動に取り組み、3活動の力をつけてきた。発表の際は、ポスター発表やプレゼンテーションソフトを活用する力を身に付けている。

今進めている総合的な学習の時間を通して、大島町がどのようにして誕生したのか、なぜこのような地形になったのかなど、自分たちの生活に密着した課題を解決する能力を身に付けさせたい。また、調べ学習や校外学習、町の防災教育を通して学んだことから新しい提案を創造し、町の人に提案するプレゼンテーション能力を身に付けさせていきたい。

(2) 単元について **地域の課題を踏まえて単元設定**

大島町は、富士箱根伊豆国立公園に属し、自然景観と生態系が十分に保護されている。また、人と大地と自然のつながりを楽しみながら学べる島として「日本ジオパーク」に認定されている。そして、活火山である三原山を有する火山島である。一方、大島町は豊かな自然環境に囲まれている反面、幾度となく自然災害に見舞われてきた。

1986年の三原山噴火では、全島民が避難となった。三原山の噴火は30～40年周期である。数年内に噴火するのではないのかといわれている。2013年には、台風26号の影響で土砂災害が起き、元町地区に大きな被害をもたらした。また2019年にも台風15号の影響で、大きな被害にあった地域があった。もし、南海トラフ地震が起きれば、津波による被害も起こるだろうと予想できる。

自然災害を防ぐことはできないが、その被害を最小限にとどめるための取組や災害から命を守るために、日頃から正しい知識をもち、十分に備えておくことが必要である。資料から知識を得るだけでなく、地域にアンケートを取って実態を把握する活動や実際に危険なところを調べる活動、学校外へ出て避難ルートを確認する活動などを通して、今後も起こり得る自然災害に対して、一人一人が安全に気を付けて行動し、避難できる力を身に付けさせたい。また、自分たちで調べたことをまとめ、地域に発信していく活動を通し、地域の一員として、様々な人と豊かな人間関係を築くことができる児童の育成に取り組んでいく。

5. 研究主題に迫るための手だて

(1) SDGsの視点に立った授業づくり

【目標11】 持続可能なまちと地域社会

【目標17】 目標のために協力すること



大島のよさや特色を知り、大島町に愛情と誇りをもつ気持ちを育てていく一方、いつ起きるか分からない自然災害に対して、自分自身が考え、行動する「自助」、近隣の方同士がともに支え合い助け合う「共助」の精神を育てていく必要がある。減災・防災を自分事として捉え、日常生活に生きる学びになるよう、課題を設定していく。また、課題解決に向け、地域の人と関わり合いながら、仲間と協力して課題解決に取り組むようにすることが大切である。そうすることで、自らが「学級」や「学校」、「大島町」の一員であることを再認識でき、主体的に人と関わったり学ぼうとしたりする姿勢が育っていくと考える。

(2) 外部人材や地域資源の活用

社会に開かれた教育課程づくり

児童の減災・防災に対する意識を高めるために、次のような連携を行う。

【防災対策室】

- ・防災対策室を見学する。
- ・防災対策室の仕事を教えてもらう。

- ・児童の質問に答えてもらう。
- ・児童自身が減災・防災に取り組もうとする意識を高める言葉かけをしてもらう。

【三原山・ジオガイド】

- ・三原山の火山の状態を知ったり感じたりする。
- ・三原山に設置された噴火対策の器具等を教えてもらう。

次の学習指導要領改訂につながり得る視点

6. 本時に該当する持続可能な社会の「ESDの要素」や「能力・態度」

ESDの要素	人を取り巻く環境に関する概念	多様性 	<p>【社会は多様な事物から成り立っていること】</p> <p>児童は既習内容や経験から、様々な自然災害があることを知っている。減災・防災について調べていく中で、自然災害が起こったときに身を守る行動や自然災害に対する日頃の備えは、災害の数だけ多様にあることを知った。様々な災害に対する自助、共助の方法をできるだけ多く知っていくとともに、その多様さの中から共通点を見出して学級全体の課題として共有することで、学級の学びを深めていくことができると考える。</p>
		相互性 	<p>【社会は物や人が関わりあって成り立っていること】</p> <p>減災・防災は、個人だけではなく、家庭や地域などに関わり合って取り組んでいくことで効果が大きくなる。自分の身を守る行動「自助」だけではなく、家族や仲間の身を守る「共助」、防災対策室の減災・防災の取り組み「公助」と、視野を広げて学習できると考える。</p>
	人の意思・行動に関する概念	公平性 	<p>【持続可能な社会は権利の保障や恩恵の享受が公平であること】</p> <p>防災対策室にインタビューしたり避難ルートを確認したりすることで、いつ何時、自然災害が起きても、大島町の誰もが安心して避難できる方法を考え、さらに自分たちにもできることを考えていくきっかけとする。</p>
		連携性 	<p>【持続可能な社会は、多様な主体が状況に応じて、互いに協力することで構築されること】</p> <p>減災・防災は、人・家庭・地域が協力し、取り組んでいくことが大切である。減災・防災を「自分事」として捉え、大島町の一員として自分たちには何ができるのかを考えさせていく。</p>
ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度	ESDの能力	未来 	<p>【未来像を予測して計画を立てる力】</p> <p>防災対策室にインタビューしたり、避難ルートや危険個所の確認のため実際に町に出て行ったり、学校や地域にアンケートを取ったりするなどの活動を通して、現状把握を行う。現状把握を基に、いつ何時起こるか分からない自然災害に対し、今の自分たちにできる減災・防災を考えたり、多くの人に知ってほしいことや取り組んでほしいことを伝えたりする。</p>
		伝達 	<p>【コミュニケーションを行う力】</p> <p>個人の課題、グループの課題、学級の課題とそれぞれ設定している。グループの課題を解決するためには、個人が調べたことや考えたことを伝え合うことが必要である。伝え合うときには、情報の伝達だけではなく、人の意見に対して自分の考えを述べ、互いの理解を深めるよう指導している。グループで伝え合いをすることで個人の課題が解決されるときもある。学級の課題も各グループの考えを共有していくことで解決できる。</p>

ESDの態度	協力 	<p>【他者と協力する態度】</p> <p>仲間と協力して課題解決に向かうことで、知識が広がったり理解が深まったり新しいアイデアが生まれたりする。協力するためには、相手の考えを受け止めたり共感したりするなど、相手の立場に立って考えることが必要である。仲間と協力し、互いの力を高め合っていく姿を称賛し、協力する態度を一層育んでいく。</p>
	参加 	<p>【進んで参加する態度】</p> <p>本單元では、グループ内での役割分担をし、自分の役割に責任をもって最後まで取り組んだり、仲間と協力して課題解決に取り組んだりする場面が多い。様々な活動に主体的に参加し、前向きに学習に取り組む態度を一層高めていく。</p>

7. 指導計画 総時数83時間 (国語27時間 社会15時間 理科10時間 総合29時間)

過程	時	取り扱う教科(時数) 「単元名」 主な学習活動	各単元の主な評価規準 (評価方法) ESDの能力・態度
つかむ	1 ~ 10	<p>国語(10時間)「みんなが過ごしやすい町へ」</p> <ul style="list-style-type: none"> 引用したり、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように工夫して書き表す。 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解する。 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にする。 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 収集した知識や情報に関連付けて話し合っている。 [知識・技能] (観察) 大島町の課題に対する自他の考え方、感じ方の違いを知り、それについて意見を伝えている。 [思考・判断・表現] (観察) <p style="text-align: right;">批判</p>
	11 ~ 13	<p>社会(3時間)「自然災害を防ぐ」</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年日本で起こった自然災害について資料から読み取って分かったことを発表し合う。 災害を防ぐために、国や地方自治体が様々な対策や事業を行っていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の自然災害やその防止の取り組みの様子に関心をもち、意欲的に調べている。 [主体的に学習に取り組む態度] (観察、発言) 日本は自然災害が起こりやすいことや、その被害を防止するために国や都道府県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。 [知識・技能] (発言、ノート) <p style="text-align: right;">多面</p>

14 ~ 23	<p>理科（10時間）「流れる水のはたらき」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7年前の土砂災害をもとに、山に水が流れると何が起こるか問題意識をもつ。 ・流れる水の働きを理解する。(本時 5/10) ・流れる水の速さや量によって土地の変化の様子が変わること理解する。 ・川や沢の水による災害や災害に対する備えについて調べ、災害に備えることの重要性を考え、日常生活に活用することができる。 ・実際の大金沢を観察して、沢や沢の周りの土地の様子、災害を防ぐ工夫について調べ、流れる水のはたらきについて考えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・7年前の土砂災害を基に、山に水が流れると何が起こるかという問題を見出しているか。 [主体的に学習に取り組む態度] (ノート、観察) 多面 ・流れる水には浸食、運搬、堆積の働きがあることを理解しているか [知識・技能] (ノート、観察) 協力 ・水の量と流れる水のはたらきとの関係について予想し、条件に着目して実験を行う方法を計画し、自分の考えを表現しているか。 [思考・判断・表現] (ノート、観察、発言) 協力 ・災害について調べる活動に進んで取り組み、災害に対して備えることの重要性を捉え、自分の考えを表現している。 [思考・判断・表現] (ノート、観察) 協力 ・沢や沢の周りの様子、急斜面、土砂が流れた所の様子を観察して、流れる水の働きや災害を防ぐ工夫について調べ、記録している。 [知識・技能] (行動観察、記録) 参加
---------------	--	---

調べる	24 ～ 32	<p>社会（4時間）「国土の気候と地形の特色」</p> <ul style="list-style-type: none"> 我が国の国土の地形や気候の概要について理解し、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる。 <p>総合（5時間） 「安全・安心な大島」</p> <ul style="list-style-type: none"> 減災、防災とは何かを知る。 「災害前」、「災害時」、「災害後」で、「分かっていること」、「曖昧なこと」、「分からないこと」で意見を出し合い、グループの課題を設定する。 「地震」、「噴火」、「津波」、「台風」、「土砂災害」グループに分かれて、資料を活用し、調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地形や気候などについて、地図帳や統計などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然の様子を理解している。[知識・技能]（学習カード・観察） 地形や気候の違いを比較したり関連付けたりして、国土の自然環境の特色を考え適切に表現している。 [思考・判断・表現]（観察） 様々な意見の中から共通点を見出し、課題を設定している。 [思考・判断・表現]（発言、観察） 本や資料を活用してグループの課題について調べている。 [主体的に学習に取り組む態度]（学習カード） <p style="text-align: right;">参加</p>
まとめる	33 34	<p>総合（2時間） 「安全・安心な大島」</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループが調べたことを、まとめる。 各グループで調べたことを発表し、学級全体におけるそれぞれの自然災害に対する知識を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことを、文章や図、絵などでまとめている。 [思考・判断・表現]（学習カード） 分かったことをグループや学級で発表し自然災害についての知識を増やしている。 [知識・技能]（発言、学習カード） <p style="text-align: right;">伝達</p>
つかむ	35 36	<p>総合（2時間） 「安全・安心な大島」</p> <ul style="list-style-type: none"> 再度、「災害前」、「災害時」、「災害後」で、「分かっていること」、「曖昧なこと」、「分からないこと」で意見を出し合い、学級の課題を全体で共有する。 5グループに分かれ、新たな課題を設定する。 課題解決に向け、必要なことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な意見の中から共通点を見出し、新たな課題を設定している。 [思考・判断・表現]（発言） 課題解決に向け、どのようなことに取り組めばいいのか考えている。 [思考・判断・表現]（発言、学習カード） <p style="text-align: right;">未来</p>
調べる	37 ～ 40	<p>総合（4時間） 「安全・安心な大島」</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災・減災の観点から、大島町の現状を把握したい内容について話し合う。 家庭や地域に減災・防災についてのアンケートを取り、集約し、グラフや表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災バックや避難ルートなど目的をもってアンケートを作成し、家庭や地域にアンケートを取っている。 [思考・判断・表現]（観察、アンケート用紙） 家庭や地域から取ったアンケートを集約し、グラフや表、図にまとめている。 [思考・判断・表現]（グラフ、表、図） <p style="text-align: right;">協力</p>

	41 ～ 52	<p>校外学習（4時間）「防災教育」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7年前の土砂災害の現場へ行き、フィールドワークで土地の地形を知ったり、被災に合われた方に話を聞いたりする。 <p>総合（8時間）「安全・安心な大島」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大島町の防災対策室に見学に行き、大島町の防災対策の現状を知ったり、職員の方にインタビューしたりする。 ・実際に元町地区、野増地区へ行き、危険な箇所を調べたり避難経路を確認したりする。 ・第5学年の防災マップを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学やインタビューを通し、自分の分からなかったことを知ろうとしている。 [主体的に学習に取り組む態度]（観察、発言、学習カード） ・仲間と協力して、危険な箇所を調べたり避難経路を確認したりしている。 [思考・判断・表現]（観察、発言） ・校外学習で気付いたことを、マップにまとめている。 [思考・判断・表現]（発言、マップ） <p style="text-align: right;">参加</p>
	53 ～ 63	<p>国語（11時間）「グラフや表を用いて書こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフや表から分かったことと減災・防災を関連させ、自分の考えを文章に書き表す。 ・書いた文章を友達と読み合い、意見や感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと根拠などを書き分けている。 [思考・判断・表現]（作文） ・友達の文章を読んで、良かった点を伝えている。 [思考・判断・表現]（発言、ノート） <p style="text-align: right;">多面</p>
まとめる	64 ～ 69	<p>社会（6時間）「自然災害とともに生きる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害は国土の自然条件などに関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる。 ・国土の自然災害の発生と自然条件との関連、防災や減災に向けた対策や事業の役割について多角的に考える力、考えたことを説明する。 ・国土の自然災害の状況と国民生活との関連について、主体的に学習の問題を解決しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の自然災害やその防止の取り組みの様子に関心をもち、意欲的に調べている。 [主体的に学習に取り組む態度]（観察、発言） ・日本は自然災害が起こりやすいことや、その被害を防止するために国や都道府県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。 [知識・技能]（発言、ノート） ・自然災害から自分たちの生活を守るために、どのようなことができるか考え表現している。 [思考・判断・表現]（発言、ノート） <p style="text-align: right;">多面 未来</p>

発信する	70 ～ 74	国語（5時間）「提案しよう、言葉とわたしたち」 <ul style="list-style-type: none"> 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考える。 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるよう表現を工夫する。 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付く。 思考にかかわる語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。 [思考・判断・表現]（スピーチ原稿） 収集した情報を整理分析し、推薦する理由として考えをまとめている。 [思考・判断・表現]（学習カード） 聞き手が納得できるように内容を構成している。 [思考・判断・表現]（スピーチ原稿） 声の強弱、速さ、間の取り方などを意識しながらスピーチの練習をしている。 [思考・判断・表現]（観察） 	多面
	75 76	総合（2時間）「安全・安心な大島」 <ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことが、より分かりやすく伝わるように提示する資料やプレゼンテーションなどを作成する。 互いの発表を見合い、伝えたいことがより伝わりやすくなるようアドバイスし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことが、より分かりやすく伝わるように資料やパワーポイントを作成するなど、工夫している。 [思考・判断・表現]（観察、発言、資料） 	協力
	77	国語（1時間）「提案しよう、言葉とわたしたち」 <ul style="list-style-type: none"> 学校、家庭、地域、役場に、減災や防災について呼び掛ける。 聞き手から感想をもらい、自分のスピーチを振り返る。 「説得力のある推薦のしかた」として学んだことを発表し合い、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。 [思考・判断・表現]（観察） 減災・防災について推薦したい事柄が、明確に伝わるように、声の強弱、速さ、間の取り方などを意識して話している。 [知識・技能]（発表） 	伝達
発信・行動する	78 ～ 81	総合（4時間）「安全・安心な大島」 <ul style="list-style-type: none"> 1年生に、減災・防災について呼び掛ける。 下校途中に自然災害が起きたことを想定し、元町地区や野増地区で1年生を連れて避難場所に安全に避難する。（避難訓練） 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生に、減災・防災について1年生に合った話し方で、呼び掛けている。 [思考・判断・表現]（観察、発表） 下校途中に自然災害が起きたことを想定し、元町地区や野増地区で1年生を連れて避難場所に安全に避難する。 [思考・判断・表現]（観察、行動、発言） 	参加
	82 83	総合（2時間）「安全・安心な大島」 <ul style="list-style-type: none"> 学習全体を振り返り、成果や課題を、今後の取り組みをまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習全体を振り返り、成果や課題を、今後の取り組みをまとめている。 [思考・判断・表現]（未来） 	未来

つばき小学校 第5学年 ESD カリソダー

教科・領域	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	筆者の考えの進め方をとらえ、自分の考えを発表しよう	話の意図を考えてきき合い、「きくこと」について考えよう	事実との考えを区別して活動を報告する文章を書こう	考えを明確にして話し合い、提案する文章を書こう	説明のしかたの工夫を見つけ話し合おう	理由づけを明確にして説明しよう	説得力のある構成を考え、すいせんするスピーチをしよう				
算数										百分率とグラフ	
社会		国土の地形の特色と人々のくらし		国土の気候の特色と人々のくらし						環境を守るわたしたち	自然災害を防ぐ
理科		天気の変化		台風と天気の変化			花から実へ			流れる水のはたらき	
総合的な学習の時間		大島の地形と人々のくらし				防災教育 ～安全・安心な大島～					
図画工作			ストーンペインティング			大島お船					
家庭		はじめてみよう、クッキング		食べて元気に			寒い季節を快適に			家族とほっとタイム	
音楽		にっぽんのうた・みんなのうた				日本の音楽・世界の音楽					
道徳		海を耕す人々	世界の文化遺産		自然を守るエゾリス				ちひろの思い	明日へ向かって	
外国語						I want to go to Italy.				Who is your hero?	
行事 学級活動 特別活動	春の全校遠足		自然教室 海のふるさと村	海浜清掃	運動会表現 男伊達		追悼式	校外学習 三原山			

理科学習指導案

8. 単元名 「流れる水のはたらき」

9. 単元の目標と評価規準

- 流れる水のはたらきと土地の変化について理解する。
- 主体的に問題解決しようとする態度を育成する。
- 災害について調べる活動に進んで取り組み、災害に対して備えることの重要性を捉えることができる。

〈評価規準〉

ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学習に取り組む態度
① 流れる水による浸食、運搬、堆積の働きを理解する。 ② 水の速さや地面の削られ方を調べている。 ③ 流れる水の速さや量によって土地の様子が変化することを、大金沢に当てはめながらまとめることができる。	① 流れる水の働きと土地の変化について、予想を基に問題解決をしている。 ② 流れる水の働きと土地の変化について、結果を基に考察し、問題解決している。	① 流れる水の働きと土地の変化について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ② 流れる水の働きと土地の変化について学んだことを防災学習や日常生活に生かそうとしている。

10. 単元の指導計画と評価計画（10時間扱い）

時	目標	主な学習活動	評価
1時	<ul style="list-style-type: none"> ・大島で起きた土砂災害について知り、山に水が流れると何が起るか問題意識をもつ。 ・川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあることを理解する。 	1. 7年前の土砂災害に関する資料写真や動画を通して、自分ごととして問題をとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・7年前の土砂災害を基に、山に水が流れると何が起るかという問題を見出しているか。 【態度】（ノート、観察）
2時		2. 川の資料写真や動画を通して、流れる場所による川と川原の石の様子の違いについてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・上流と下流によって、川と川原の石の大きさや形に違いがあることを理解しているか 【知識】（ノート、観察）
3時	<ul style="list-style-type: none"> ・流れる水の働きを理解する。 ・流れる水の速さや量によって土地の変化の様子が変わることを 	3. 山の斜面に水を流して、流れる水の働き（浸食、運搬、堆積）を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・流れる水には浸食、運搬、堆積の働きがあることを理解しているか 【知識】（ノート、観察）
4時		4. 土砂災害を引き起こすほど、流れる水の働きが大	<ul style="list-style-type: none"> ・水の量と流れる水の働きとの関係について予想し、条件に着目して実験

5時 本時	理解する。	きくなるのはどのような時か考え、実験方法、実験計画を立てる。 5. 流す水の量を変えて、流れる水の動きを調べる。 (本時)	を行う方法を計画し、自分の考えを表現しているか 【思考】(ノート、観察、発言) ・流れる水の速さや量によって土地の変化の様子が変わることを理解しているか。 【知識】(ノート、観察)
6 ～ 7時	・川や沢の水による災害や災害に対する備えについて調べ、災害に備えることの重要性を考え、日常生活に活用することができる。	6～7. 川や沢の水による災害(10月16日追悼式資料)や災害に対する備え(堆積工、ハザードマップ等)について、調べたり考えたりする。	・災害について調べる活動に進んで取り組み、災害に対して備えることの重要性を捉え、自分の考えを表現している。 【思考】(ノート、観察)
8 ～ 9時	・実際の大金沢を観察して、沢や沢の周りの土地の様子、災害を防ぐ工夫について調べ、流れる水の動きについて考えることができる	8～9 校外学習(11月2日) ・大金沢沿いを観察し、沢の様子や沢の周りの様子(堆積工や導流堤)、被害の様子について、ゲストティーチャー(観光課ジオガイドや当時被災された方)のお話を伺いながら、調べる	・沢や沢の周りの様子、急斜面、土砂が流れた所の様子を観察して、流れる水の動きや災害を防ぐ工夫について調べ、記録している。 【行動観察、記録】
10時	・流れる水の動きと土地の変化について、学習したことをまとめることができる。	10. これまでの学習をまとめる。	

11. 本時の指導(5/10時間)

(1) 本時の目標

- ・流水実験によって、流れる水による浸食、運搬、堆積の動きを理解することができる。
- ・流水実験を行うことで、水の速さや地面の削られ方を調べることができる。
- ・流れる水の速さや量によって流れる水のはたらきが変わり、土地の様子が変化することを、大金沢に当てはめながらまとめることができる。

(2) 展開

段階	<ul style="list-style-type: none"> • 主な学習活動 C：予想される児童の姿 	<input type="checkbox"/> 指導上の留意点 ◆ 評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> • 問題の確認 • 土砂災害の様子の確認 • 流れる水の働き（浸食、運搬、堆積）確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 7年前の土砂災害と流れる水の働きには、どのような関係があるか </div> <ul style="list-style-type: none"> • 予想を立てる C:大雨が降って、流れる水の量が増え、流れる水の働きが大きくなった。 C:流れる水の働きが大きくなり、土砂災害が起きた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 流す水の増やすと、流れる水のはたらきはどうか調べよう </div>	<input type="checkbox"/> 7年前の土砂災害がなぜ起きたのかと関連させて考えさせる。 つながり <input type="checkbox"/> 前時にバットに大金沢を基にした斜面を作る 未来 計画 <input type="checkbox"/> 流れる水の働き（浸食、運搬、堆積）を掲示しておく
展開 20分	<ul style="list-style-type: none"> • 実験の予想を立てる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 作った山を三原山、川を大金沢とします。流す水の量を増やすと、大金沢周辺はどうなりますか。 </div> C:沢を流れる水の速さが速くなる。 C:沢の土や火山灰がたくさんけずられ、土砂崩れが起きる。 C:土砂崩れによって大量の土や火山灰、つばきが運ばれる。 C:下流に大量の土砂がつもる <ul style="list-style-type: none"> • 実験 • 洗淨ピン1つで水を流して、流れる水の速さと土の削られ方を調べ、記録する。 • 洗淨ピン2つで水を流して、流れる水の速さと土の削られ方を調べ、記録する。 • 結果の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> どんな結果になりましたか。グループで考えを整理しましょう。 </div> C:流す水の量を増やすと、流れる水の働きが大きくなり、土がたくさんけずられたり運ばれたりする。 C:運ばれた土は下流につもる。	<ul style="list-style-type: none"> • バットに作った山を三原山外輪山、川を大金沢に見立てて、流す水の量を増やすとどうなるか、予想を立てさせる。 未来 計画 <input type="checkbox"/> 結果記録表を配布する ◆水の量を変えて流れる水の働きを調べるモデル実験を、条件に気を付けて行い、記録している。 【技能】（行動観察、記録） 協力

<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の量と流れる水の働きをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>流す水の量を増やすと、流れる水のはたらきはどうなりますか。</p> </div> <p>C:流す水の量を増やすと、流れる水の働き（しん食、運ぱん、たい積）が大きくなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 土砂災害が起きた原因についてまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>7年前、大金沢周辺で土砂災害が起きて、土地の様子が変わった原因を、浸食、運搬、堆積という言葉を使ってまとめましょう。</p> </div> <p>C:台風による大雨が三原山に降り、大金沢を流れる水の量が増えた。</p> <p>C:沢を流れる水の働きが大きくなり、沢の両側の土がたくさんしん食され、土砂崩れが起きた。木も流された。</p> <p>C:しん食された大量の土砂が土石流となって運ぱんされ、沢からあふれだした。</p> <p>C:大金沢の周りにあふれ出た大量の土や木が、元町地区や弘法浜に堆積され、土地の様子が変わった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆流れる水には、浸食、運搬、堆積のはたらきがあることを理解している。 【知識】（ノート、観察） ◆雨の降り方によって流れる水の量や速さが変わり、増水によって土地の様子が大きく変化する場合があることを理解している。 【知識】（ノート、観察） <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> 多面 総合 </div>
--	--

(3) 授業観察の視点

- 大島で起きた土砂災害や身近にある三原山、大金沢を教材で活用したことは、児童が課題を自分事として捉え、今後の防災学習にて主体的に取り組む姿勢を養うために有効であったか。
- ESD の能力・態度を育む教師の言葉かけは、子供が課題を自分事として捉え、思考をふかめていく上で有効であったか。

12. 今後の展望

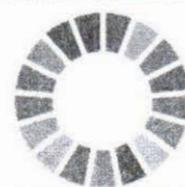
この学習を通し、大島町は魅力的な自然があるととともに、火山や土砂災害などが起こりやすい地域であることを実感させたい。

2学期には、追悼式への参加はなくなってしまったが、校外学習と防災教育を通し、大島町の豊かな自然と災害について、触れたり学習したりする機会がある。国語科の「みんなが過ごしやすい町へ」の学習では、大島町の人たちがよりよい生活をしていくために、大島町の課題や課題を解決する方法について討論会を行った。その中で、児童から「防災」「安心」「人との関わり」などのキーワードが出された。そのキーワードを基にして、総合的な学習の時間では、減災・防災について調べていこうという課題設定を行った。

今回の単元を通し、「自分たちが何を分かっている、何を分かっているのか」、「具体的に自分たちが取り組めることは何なのか」を明確にしながら学習に取り組ませ、児童の生活に生きる学習にしていく必要がある。

3学期には、国語科『提案しよう、言葉とわたしたち』という単元を通して、事実と感想、意見とを区別して提案を考えていく。大島で生きていく自分たちの生活に「防災」というテーマで新しい提案をできるよう支援していきたい。

ESD・SDGs通信



大島町立つばき小学校

令和2年度10月12日

ワクワク研究授業号

運動会、お疲れ様でした！特に豊田体育主任始め、体育的行事の方々はコロナ対策や天候不安で、肉体的だけでなく、精神的にも、大変お疲れだったと思います。様々な反省はもちろんあると思いますが、子供が元気に楽しく参加できていて、本当によかったと思います。反省は、来年度以降に生かしていきましょう！

さて、いよいよ研究授業です。私、研究授業が大好きです。自己の授業改善は、子供の力を高めることに直接繋がります。授業者は大変なこともあります、教師が頑張った分だけ子供に返っていくので、前向きに取り組んでいきましょう。参観者は、手だてや手法、授業に関する視点や学習全体の流れなど、1つでも多くのことを学び、自身の授業に生かしていきましょう。

研究授業のトップバッターは、吉野先生!!豊田先生と密な連携を取り、山田三正先生にも普段からアドバイスをもらい、「自分事」として考えていける授業づくりに励んでいます。次は、三原学級です!!普段から密に連携を取って情報交換をしながら、日々の授業を行っている姿が印象的です。この3人が、練り上げた研究授業、楽しみです。また、特別支援学級は、細かな手だてや支援などがたくさんあります。たくさん学んでいきましょう。

【野本】

～5年生研究授業の見どころ!～

これまで、山を作り、水を流して学習していた単元「流れる水のはたらき」ですが、今回は大島を教材として計画してみました。それは、7年前の土砂災害です。2013年10月16日未明、台風26号により、元町大金沢上流域の外輪山斜面で表層崩壊が多発し、流木を伴う大規模な泥流が発生しました。

子供たちに「土砂災害はなぜ起きたのか。」「土砂災害はどのようにして起こったか。」という問いかけ等を通して課題を自分事として捉えさせています。本時では、作った山に水を流す実験などをして、単元のねらいに迫っていきたいと考えています。この授業をきっかけに、子供たちが防災学習への意欲を高め「大島で生き続けるために自分ができること」を考えていければと願っています。

(吉野)

11 住み続けられるまちづくりを



～5年生授業の今まで!～

(コロナ禍ということで)なかなか思うように、計画・実践が進んでいないのが現状です。1学期からのスロースタートからいよいよ本格的に動き出しました。昨年の5年生の発表が記憶に刻まれており「防災」というテーマは、自然に子供たちのものになっていました。自分が何についての防災に取り組みたいのかアンケートをとり、どんなことを調べていきたいか少しだけ時間を割いて考えました。理科の授業や東京都市大学とのコラボ企画の防災教育を生かし、大島の地形を学び、そこから見えてくる大島から防災に繋げて3学期に新しい提案を発信していきます!

(豊田)

～三原学級の研究授業の見どころ!～

三原学級では、人と関わるために重要な「話す・聞く」のスキルアップに取り組んでいます。子供たちの実態に合わせて、同じやり取りの繰り返しや答えやすい内容の設定、話すことと聞くことの活動を分けるなどを考え、指導計画を立てました。また、実態に合わせた個別のめあてを設定し、複数教員で評価をして、より具体的に見取ることができるのも三原学級ならではのです。また、子供たちが自然と言葉を発したり、やり取りを楽しんだりできるような環境作り(授業の初めに音楽を用いる)、子供たちが自信をもって次の活動に取り組めるような言葉かけを意識しています。この授業で、子供たちの実態を知ってもらえて、三原の子供たちとつばき小学校の先生たちとの日頃のやりとりが増えていくとさらに嬉しいです。

(川田)

研究の構想図

令和2年2月時点のもの

【社会の要請】

- 主体的・対話的で深い学びの実現
- 社会に開かれた教育課程
- 郷土大島への誇り

【つばき小学校学校経営方針】

- 自らの力量に自信があり、何事にも主体的に働き掛けができる人材の育成
- 誰とでも穏やかな人間関係を結び続けられる人材の育成

【現状と課題】

- 各種学力調査における学力の相対的な低下
- カリキュラム・マネジメントの停滞
- 自己肯定感の低下とキャリア発達の停滞
- 地域人材の活用の更なる活性化

【SDGs で身に付けたい力】

- ①未来像を予測して計画を立てる力
- ②多面的・総合的に考える力
- ③コミュニケーションを行う力
- ④他者と協力する態度
- ⑤進んで参加する態度
- ⑥つながりを尊重する態度
- ⑦批判的に考える力

＜つばき小学校 研究主題＞

大島の未来を切り拓く人材の育成
～SDGsの視点に立った郷土大島に根ざした学習を通して～

＜目指す児童像＞

自信をもって主体的に行動し、豊かな人間関係を築くことのできる子

【低学年の目指す児童像】

- 何事にもチャレンジする姿勢をもち、自分の思いや考えを相手に伝えることができる子
- 友達を思いやり、協力して活動や仕事ができる子

【中学年の目指す児童像】

- 自分のよさに気づき、それを大切にできる子
- 話合いや活動を通して、友達の考えを聞き、認め合える子

【高学年の目指す児童像】

- 主体的に取り組み、物事を多面的・総合的に考え、他者に発信できる子
- 学校や地域の人と豊かな人間関係を築くことができる子

＜研究の仮説＞

教育活動をSDGsの視点から捉え直し、外部人材や地域資源等を積極的に活用することで、児童が郷土大島の素晴らしさを知り、考え、発信する素地を育むことを通して、自信をもって主体的に行動し、豊かな人間関係を築くことができるだろう。

研究の視点①

SDGsの視点に立った単元開発…授業改善

研究の視点②

外部人材や地域資源等の活用

研究の内容①

- 年間指導計画の見直し（生活科・総合的な学習の時間）
- ESDカレンダー、SDGs実践表の作成

研究の内容②

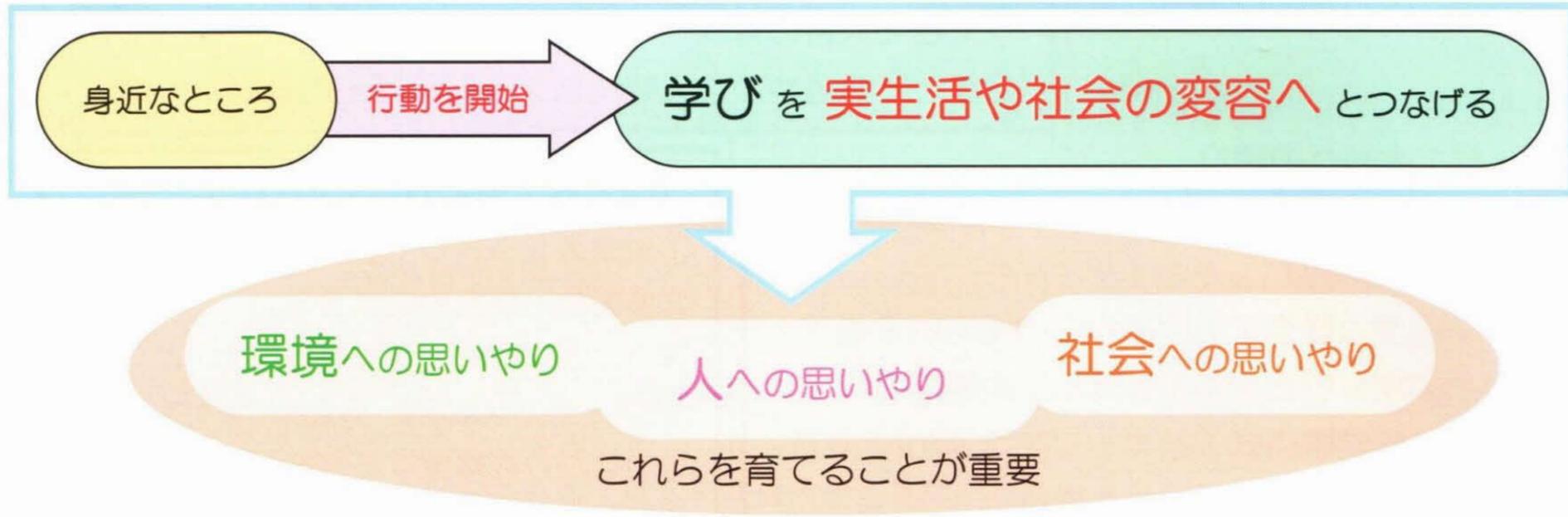
- 外部人材リストの作成
- 学校支援委員会の確立

講演：「大島における持続可能な開発のための教育」

令和元年5月7日（火曜日）伊豆大島ジオパーク推進委員会 教育文化部会長 山田三正 先生

「持続可能な開発のための教育」の確認

OECD が力点を置くのは、「様々な問題が、自分の生活に関係していること」を意識付けること。



「行きつくところは地域社会」

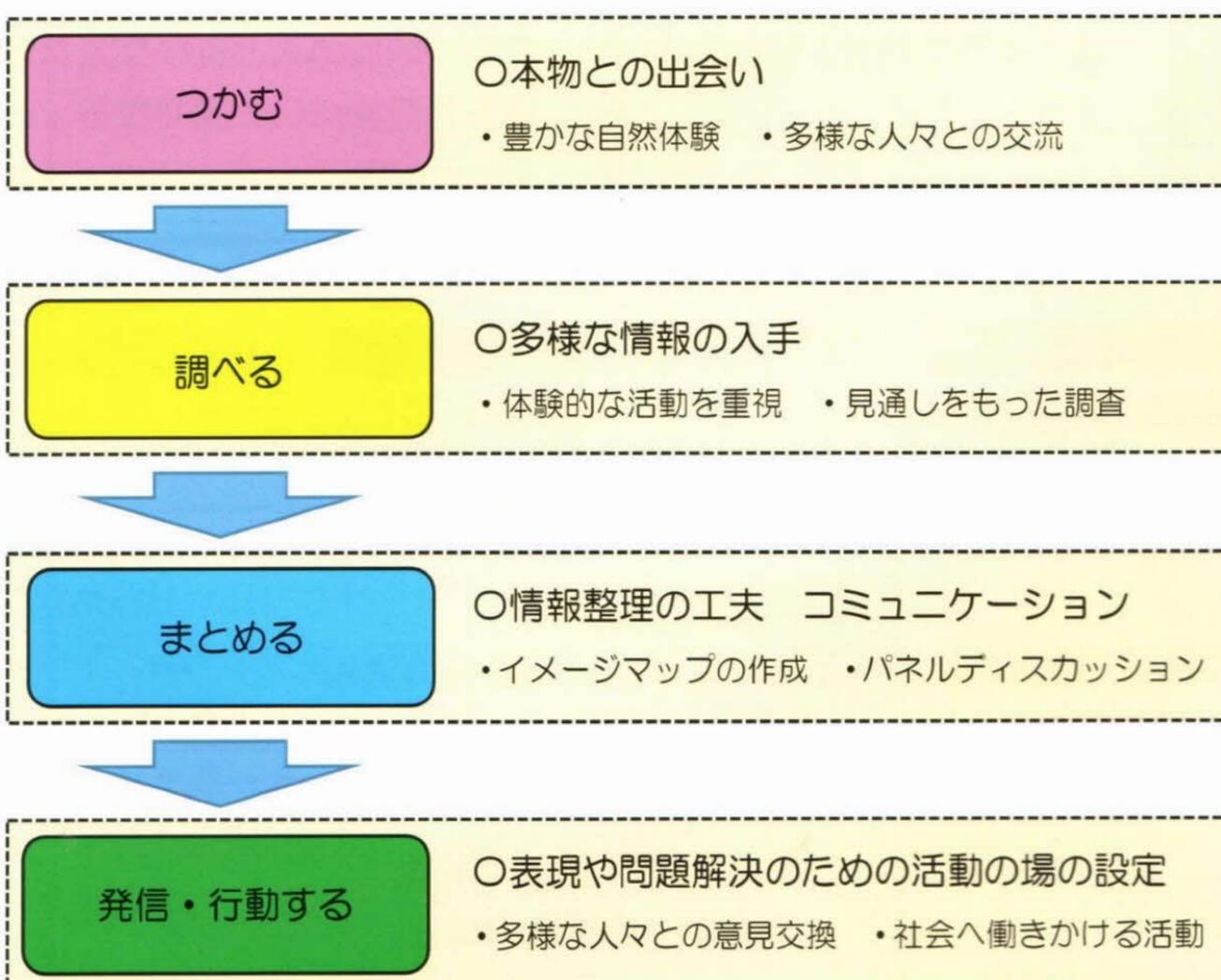
ESD という新しい視点から捉え直すことにより、個別分野の取組に「持続可能な社会の構築」という共通の目的を与え、具体的な活動の展開に明確な方向付けをする。

それぞれの取組を互いに結び付けることにより、一層の充実・発展を図ることを可能にする。

ESD 研修会：持続可能な社会の担い手を育成するために

令和元年6月25日（火曜日）目白大学 人間学部 児童教育学科 石田好広 先生

「学習過程と指導方法の工夫」



「ESD で培いたい価値観」

- ・人間の尊厳は かけがえのないものである
- ・人は自然の一部である
- ・文化の多様性を尊重する
- ・社会的・経済的に公正な 社会をつくる責任がある
- ・現代人は将来世代に対する 責任をもっている



■単元の目標

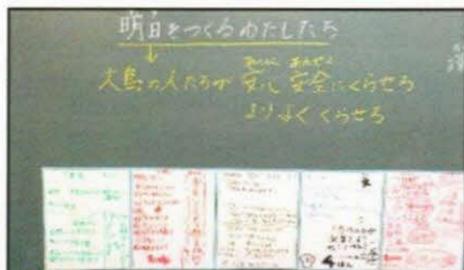
- ①大島町の自然災害の現状、減災・防災について理解を深め、これから自分たちでできる減災・防災について、自ら課題を見付け、多面的・総合的に考え、大島町に発信することができるようにする。
- ②現在および将来に直面する災害に対して、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。

■本単元でねらう ESD の能力・態度

批判 未来 多面 伝達 協力 関連 参加

■成果と課題

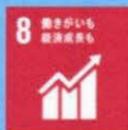
- ①減災・防災について「知っていること」「あいまいなこと」「知らないこと」を考える活動を通し、自らの課題が明確になった。互いの意見を共有する時間を確保し、多面的・総合的に考えられるような活動を設定した。
- ②減災・防災についての知識量は増えたが、「自分事」として捉えるには、学習内容と今の自分の現状を比べる時間や家庭で取り組む活動を多く取り入れる等、さらなる手立てが必要だった。



国語科「明日をつくるわたしたち」の学習で、児童から「総合でもっと調べたい。」という意見が出たので、総合に繋がった。



防災対策室に行き、防災対策室の様子や仕事の内容を説明してもらったり、減災・防災について質問したりした。



■単元の目標

- ① 大島町の魅力や課題を多面的・総合的に考え、外部に発信することで表現する力を身に付ける。
- ② ゲストティーチャーによる出前授業や取材活動を通して地域の方々と豊かな人間関係を築き、地域の一員として自信をもって主体的に行動しようとする。

■本単元でねらう ESD の能力・態度

批判 未来 多面 伝達 協力 関連 参加

■成果と課題

- ① ESD カレンダーを活用しながら単元計画を作成し、教科等横断的（国語・道徳・外国語活動）に学習すること
- ② 外部人材としてゲストティーチャーを活用したことで、児童の思考や視点以外からの情報や知識を多く得ることができた。得た知識をどのように整理・分析し、より効果的に学習に生かしていくかが課題である。



国語「討論会をしよう」では、大島の一番の魅力を考えた。思考ツールを活用し、教科等横断的に学習を進めることができた。



大島ジオパーク推進委員会の方に大島の魅力と課題についてインタビューをした。専門家からの指導は、とても効果的であった。



■単元の目標

- ① 自然の中で果実や木の実がなるのを見て、触れて、その後の使い道を知って、自分の生活に生かせることが分かる。
- ② 地域の方々との関わりを通して、コミュニケーション能力を高め、地域とのつながりを築く。

■本単元でねらう ESD の能力・態度

批判 未来 多面 伝達 協力 関連 参加

■成果と課題

- ① 季節に応じて、大島の自然の中に果実や木の実などの恵みがあることを知り、ジャムや油に加工できることが分かった。別の果実や木の実も取り上げ、体験の幅を広げていくことが課題である。
- ② 自分たちで収穫して作ったプラムジャムをお世話になった地域の方にプレゼントしようという思いをもつことができた。今後も、様々な活動で地域へ積極的に足を運び、地域の方々とのつながりを深めていきたい。



地域の方のご自宅でたくさんのおプラムを収穫させていただきました。その後、学校の多目的室でジャム作りを行った。



昨年拾った樅の実を樅油の製油所へ届け、後日、搾油を見学に行った。挨拶・お礼・質問など行い、交流することができた。

SDGs 実践計画表

大島町立つばき小学校

学習指導要領の改訂を視野に
目標4 質の高い教育を全ての人に



SDGs の視点に立った単元開発
ESDカレンダーの作成
外部人材や地域資源等の活用

<p>1 貧困をなくそう</p> <p>目標 1 貧困をなくす</p> <p>6年 世界の未来と日本の役割 (社会)</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p> <p>目標 2 飢餓をゼロにする</p> <p>5年 バケツ稲作り (理科) 5年 これからの食料生産とわたしたち (社会) 6年 世界の未来と日本の役割 (社会)</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>目標 3 健康と福祉</p> <p>3年 毎日の生活と健康 (保健) 5年 けがの防止 (保健) 6年 病気の予防 (保健)</p>	<p>5 ジェンダー平等を實現しよう</p> <p>目標 5 ジェンダー平等の實現</p> <p>4年 だれもが関わり合えるように (国語) 6年 共に生きる生活 (道徳)</p>
<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> <p>目標 6 安全な上下水道の保障</p> <p>4年 暮らしをささえる水 (社会) 6年 水溶液の性質とはたらき (理科)</p>	<p>7 エネルギーをみんなにクリーンに</p> <p>目標 7 エネルギーをみんなにクリーンに</p> <p>6年 電気と私たちの暮らし (理科) 三原 かじつやきのみをひろってやくだてよう</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>目標 8 経済成長と人間らしい仕事</p> <p>6年 世界がおどろく七分間清掃 (道徳)</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <p>目標 9 産業と技術革新の基盤づくり</p> <p>6年 町おこしプラン (道徳)</p>
<p>10 人や国家間の平等</p> <p>目標 10 人や国家間の平等</p> <p>3年 昔の暮らしたんけんたい (社会) 5年 ガンジーのいかり (道徳) 6年 日本とつながりの深い国々 (社会)</p>	<p>11 安全で災害に強いまちづくり</p> <p>目標 11 安全で災害に強いまちづくり</p> <p>2年 町たんけん (生活) 3年 地域安全マップを作ろう (社会) 4年 安全な暮らし (社会) 5年 自然災害を防ぐ (社会) 6年 火山防災 (火山博物館見学) 6年 震災復興の願いを實現する政治 (社会) トライアンドチャレンジ 地域清掃活動</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p> <p>目標 12 持続可能な生産と消費</p> <p>4年 ごみのしまつと再利用 (社会) 5年 バケツ稲作り (理科) 5年 これからの食料生産とわたしたち (社会) 5年 じょうずに使おうお金と物 (家庭)</p>	<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> <p>目標 13 気候変動対策</p> <p>5年 国土の気候の特色と人々の暮らし (社会) 6年 大地のつくりと変化 (理科)</p>
<p>14 海の豊かさを増そう</p> <p>目標 14 海の豊かさ</p> <p>1・2年 海浜教室 1・2年 校外学習 5・6年 海浜清掃 6年 地球に生きる (理科) 4年 ウナギのなぞを追って (国語) 三原 うみあそびをしよう</p>	<p>15 陸の豊かさを保ち増そう</p> <p>目標 15 陸の豊かさ</p> <p>1年 きれいに さいてね (生活) 1年 なつだ あそぼう (生活) 1年 たのしい あきいっぱい (生活) 1年 つくろう あそぼう (生活) 1・2年 小高連携収穫体験 2年 大きくなあれ わたしの野さい (生活) 3年 大島の未来を考える (総合) 5年 環境を守るわたしたち (社会) 6年 地球に生きる (理科) 三原 やさいをそだてておいしくいただく 三原 かじつやきのみをひろってやくだてよう 全学年 校外学習</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p> <p>目標 16 平和で公正な社会と行政</p> <p>6年 わたしたちの生活と政治 (社会) 4年 パラリンピックの競技 (道徳) 4年 ブラジルからの転入生 (道徳) 3年 ちいちゃんのかげおくり (国語)</p>	<p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p> <p>目標 17 世界の協力とパートナーシップ</p> <p>1年 つくろう あそぼう (生活) 3年 海をわたるランドセル (道徳) 4年 十六番目の代表選手 (道徳) 6年 世界の未来と日本の役割 (社会)</p>

外部人材リスト

【敬称略】

学年	教科	単元名	講師名、施設名
1 年生	生活	たのしい あき いっぱい	大島高等学校農林科
		収穫体験（春&秋）	大島高等学校農林科
		さつまいも調理	大島高等学校家政科
2 年生	生活	大きくなあれ わたしの野さい収穫体験	大島高等学校農林科
		みんなでつかう まちのしせつ	大島町図書館、大島観光協会、大島町役場観光課、赤門、潮音寺、伊豆半島ジオパークジオガイド、トリトン、金太楼、大島町役場防災対策室、大島警察署、大島町役場教育文化課、大島町役場野増出張所、大島町子ども家庭支援センター、大島町教育相談室、寿し光
		まちたんけん	
	校外学習	海浜教室	第一中学校理科 大島高等学校生物科、教育長職務代理者
		秋の校外学習	ぱれ・ら・めーる、大島高等学校農林科
3 年生	総合的な学習の時間	大島の未来を考える！	大島公園事務所課長代理
	社会	消防の仕事と人々の協力	大島町消防本部
		警察の仕事と人々の協力	大島警察署
	校外学習	秋の校外学習	大島牛乳工場、大島空港、海の精塩工場（元町工場）
4 年生	社会	消防の仕事と人々の協力	大島町消防本部
		警察の仕事と人々の協力	大島警察署
		くらしをささえる水	北の山 浄水場
		ごみのしまつと再利用	千波環境美化センター
	総合的な学習の時間	100年先まで続け 大島のつばき ～体験しよう つばき産業～	ペンション すばる（花びらジャム） ふるさと体験館（椿油・つばき染） 夢工房（つばき染） 大島高等学校（椿の剪定・炭焼き）
	音楽	にっぽんのうた・みんなのうた	大島春和会
図画工作	糸のこぎりの使い方	第一中学校技術科	
5 年生	理科	静電気	第一中学校理科
	総合的な学習の時間	大島の地形と自然	伊豆半島ジオパークジオガイド
		安全・安心な大島～自分たちにできること～	大島町役場防災対策室、明治会、千歳会
	音楽	追悼式に向けて	第一中学校音楽科
	図画工作	クリスマスカード	つばき小学校支援員
家庭	はじめてみよう、ソーイング	第一中学校家庭科	
6 年生	理科	火山博物館見学	教育長職務代理者
	家庭	楽しくソーイング	大島高等学校家政科
	音楽	追悼式に向けて	第一中学校音楽科
	図画工作	木彫り箱	第一中学校美術科
	校外学習	三原山	教育長職務代理者 伊豆半島ジオパークジオガイド
三 原	体育	プール指導	第一中学校
	校外学習	プラム採り 椿の実採り お馬さん 野菜の栽培 落葉拾い	立木功 大島藤倉学園 柳瀬農園 大島高等学校農林科 第一中学校
行 事	中学年	野増節	長濱 富中
	高学年	男伊達	市村 松之、白石 利昭